

世界遺産暫定一覧表記載資産候補に係る提案書

資産候補名称

三徳山－信仰の山と文化的景観－



平成19年12月26日

鳥取県

三朝町

－ 目 次 －

1 提案のコンセプト	• • • • 1
(1) 資産名称・概要	• • • • 1
(2) 写真	• • • • 2
(3) 図面（資産の位置・範囲）	• • • • 3
 2 資産に含まれる文化財	• • • • 6
(1) 整理表	• • • • 6
(2) 構成要素ごとの位置図と写真	• • • • 11
 3 保存管理計画	• • • • 20
(1) 個別構成要素に係る保存管理計画の概要 又は策定に向けての検討状況	• • • • 20
(2) 資産全体の包括的な保存管理計画の概要 又は策定に向けての検討状況	• • • • 20
(3) 資産と一体をなす周辺環境の範囲、 それに係る保全措置の概要又は措置に関する検討状況	• • • • 21
 4 世界遺産の登録基準への該当性	• • • • 22
(1) 資産の適用種別と世界文化遺産の登録基準	• • • • 22
(2) 真実性・完全性の証明	• • • • 22
(3) 類似遺産との比較	• • • • 23

(1) 資産名称・概要

- 名 称 三 德 山—信仰の山と文化的景観—
 概 要

三徳山は中央貴族、近世大名等を始め多くの人々が信仰を寄せた山陰の靈峰である。ここには信仰によって結ばれた人と自然の良好な関係が今も持続しており、地域に守り伝えられた生活と文化がある。そこで、国指定名勝及び史跡三徳山（三徳地区）と名勝小鹿渓（小鹿地区）に未指定地（神倉地区）を含めて、三徳川と小鹿川に挟まれた山塊を保護すべき文化遺産「三徳山」として提案する。さらに、その周囲に広く緩衝地帯を設け、この地域も含めて適切に保全しながら、将来にわたって質の高い保存・管理・活用を図ろうとするものである。

靈峰として信仰を集める山は日本のみならず世界の各地に多くあって、それぞれの地域で独自の信仰が人々の間に受け継がれている。また、各地域には独自の生活文化や様式が伝えられている。多くの国宝・重要文化財を伝える三徳山は、そうした数ある宗教・信仰・習俗に関する同種資産の中にあって、既に国の名勝・史跡に指定された景勝地、信仰の場、宗教施設群としての価値が高いだけでなく、「人と自然の調和」という思想が顕在化した信仰の空間として、時代を超えて人と自然との関わりを示す文化的景観の顕著な事例である。

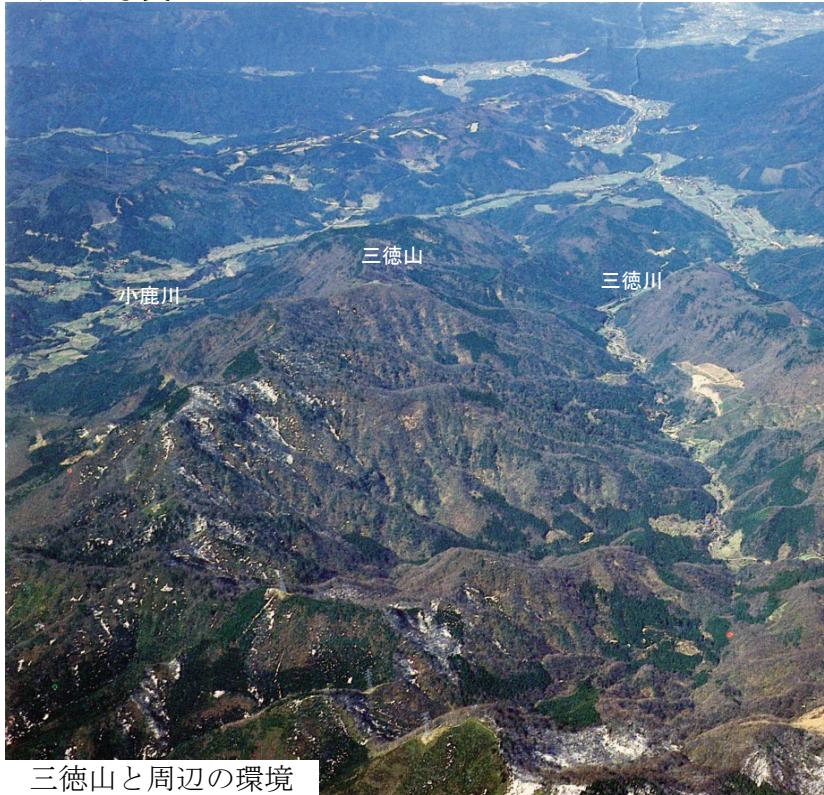
ところで、多くの靈峰が遠方からも認識されることを意識したかのような高峰であるのに対し、標高 900 メートルの三徳山は高さと遠望を誇るものではなく、知るものにしかその所在を認識できない山である。つまり、三徳山の信仰は単に峰の高さ、山容の美しさ、険しさに求められたものではない。三徳山には、一般的に標高 800 メートルより高い場所に生育するブナが標高 400 メートル付近から認められるように、標高に比して冷涼な環境を好む植生が形成されている。こうした自然環境が三徳山の神聖な雰囲気を醸成している。また、三徳山の神聖な空間、その中に点在する奇岩、岩窟、滝は多くの修験者の信仰を集め、修験道場としての知名度を高めた。照葉樹林からブナ林帯へと変遷する植生の垂直構造が良好に残る自然林は今の時代に貴重なものであり、今も信仰の基盤をなす原生的な自然環境が三徳山には保全されている。

平安時代には天台宗三徳山三佛寺が建立され、蔵王権現を正本尊に祀る国宝奥院「投入堂」が建立される。投入堂は神仏習合を表す建築の最古例として貴重な建造物であり、今も三徳山信仰の象徴である。そして、この投入堂に至る道程は山林修行の場として行者道と呼ばれている。行者道には地形を巧みに利用した一筋の道があり、投入堂を目指す過程に仏教建造物群が配置されている。行者道を構成する仏教建造物群の特徴は、自然を改変することなく、急峻な岩場の地形と一体化した懸造によって建造されていることにある。三徳山信仰の中核をなす行者道は、三徳山特有の自然環境の中に神仏を見出し、自然環境との調和を目指す優れた設計思想を具現化している。人類の創造的才能を示す三徳山の景観は、開山して 1,000 年以上の時を経た今も、峰入りした人々に深く感動をあたえている。

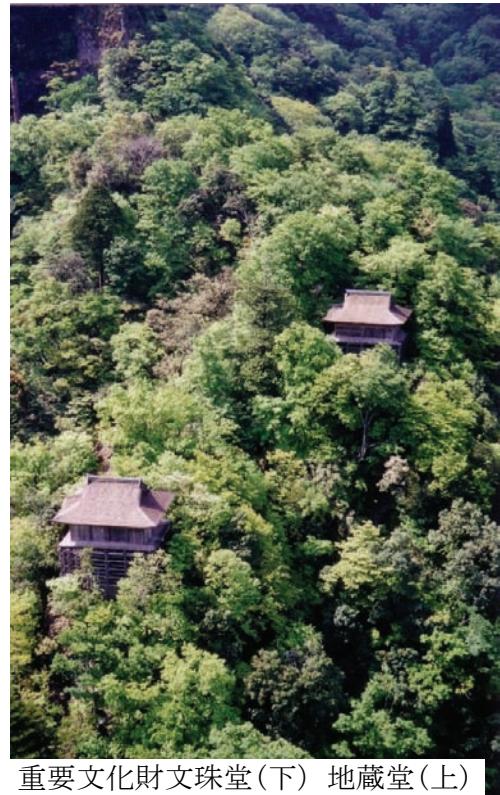
また、鳥取県内には三徳山の歴史的背景となる重要な歴史・文化遺産が東西広範囲に点在している。国史跡伯耆国府及び国分寺・国分尼寺等の古代遺跡群、伯耆一宮經塚、平安時代から西日本最大の靈峰として多くの信仰を集めてきた大山等は、山林仏教寺院として顕在化する三徳山と歴史上の関わりの深い資産である。さらに、エンタシスの柱とパルメット文様で飾られた古代の石造物として知られる岡益石堂（陵墓参考地）、国史跡上淀廃寺跡から出土した法隆寺金堂壁画と並ぶ国内最古級の彩色仏教壁画等は、鳥取という地域がシルクロードを介し遠くヨーロッパ世界ともつながり、東アジア世界に大きな影響を与えた仏教文化が色濃く受容された地域であることを示している。

こうした歴史的背景、風土の中に育まってきた三徳山を人類の貴重な文化遺産として提案するものである。なお、今回の提案後もさらなる調査研究を進め、資産構成を拡充していく。

(2) 写真



三徳山と周辺の環境



重要文化財文珠堂(下) 地藏堂(上)



国宝奥院投入堂



法会散華



修験者の祈り



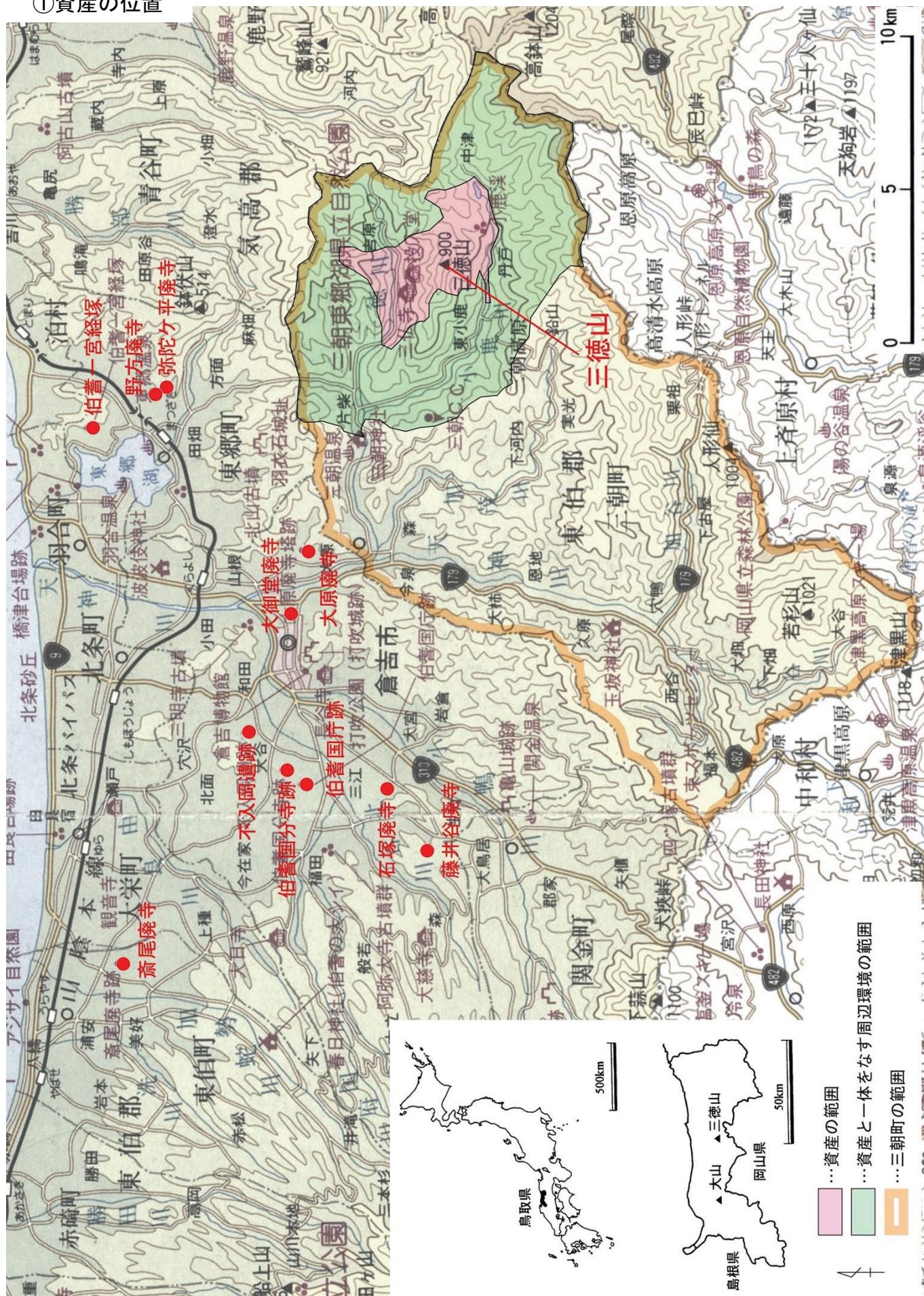
重要文化財木造蔵王権現立像



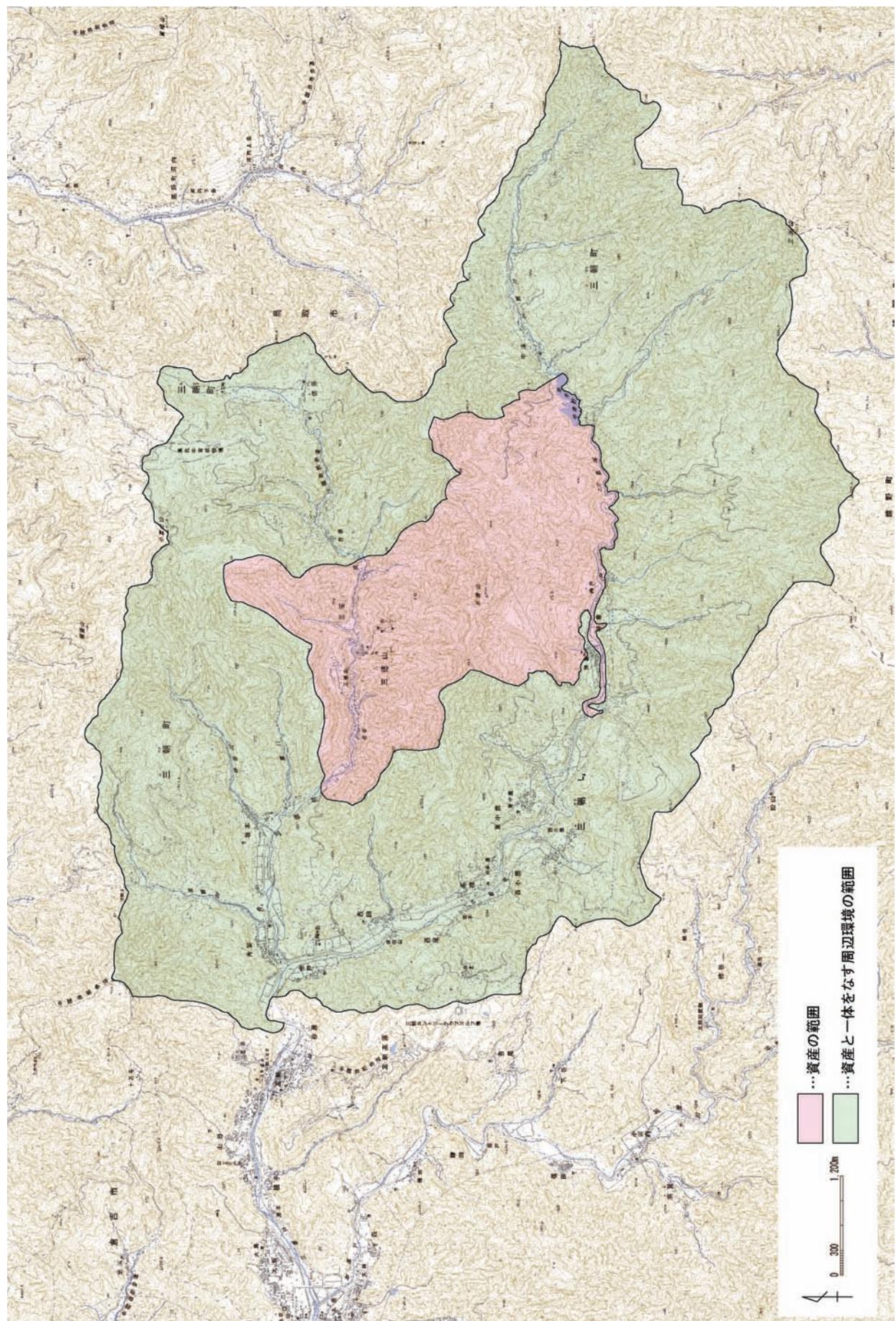
名勝小鹿渓

(3) 図面(資産の位置・範囲)

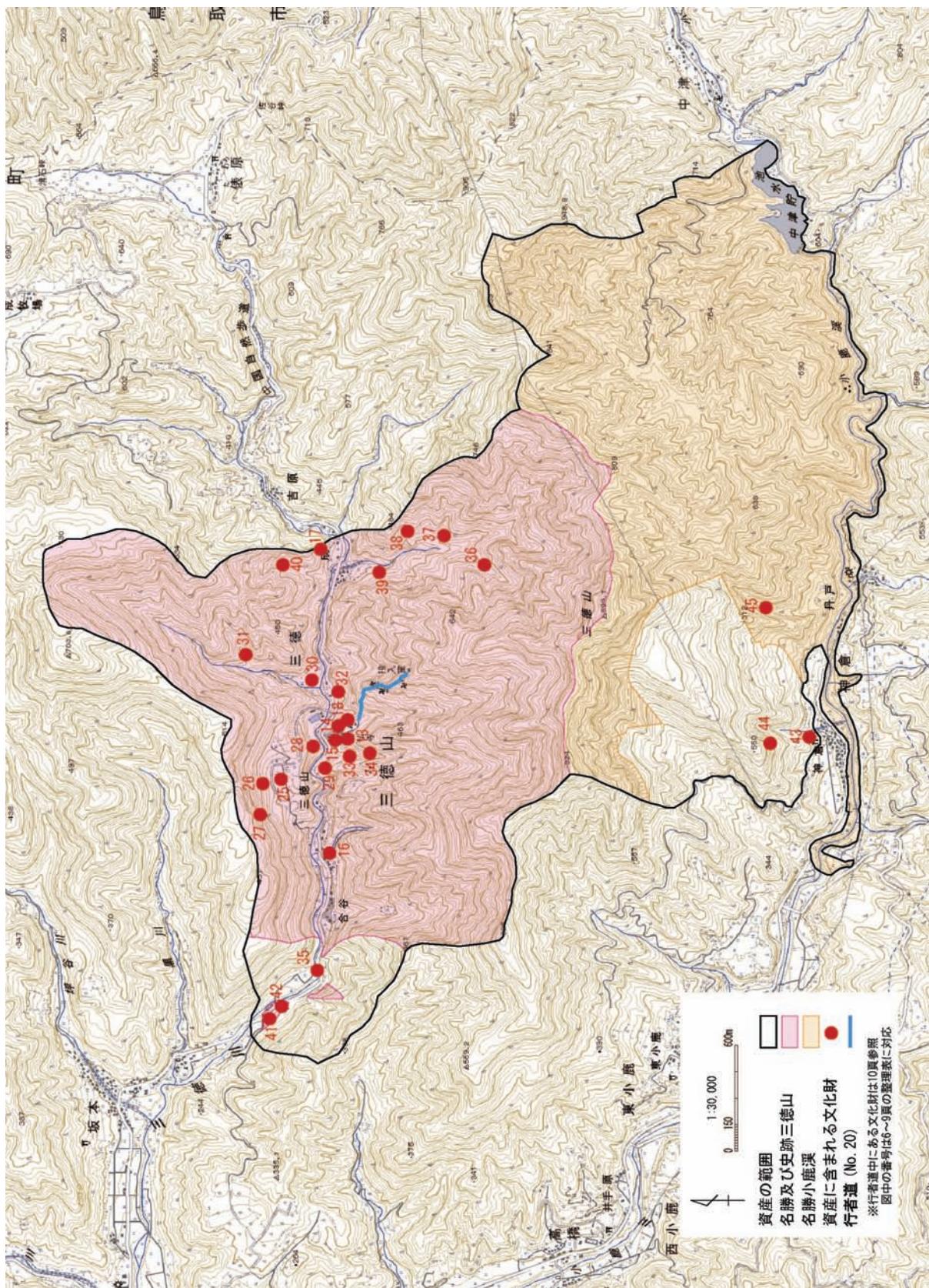
① 資産の位置



②資産の範囲と資産と一緒になす周辺環境の範囲



③資産の範囲と構成要素の分布



2 資産に含まれる文化財

(1) 整理表

構成資産

三徳地区

名 称	保護 主体	保護の 種 別	員数	概 要
三徳山	国	名勝及び 史跡	591 ha	三徳山三仏寺の縁起によると、慶雲3年(706)役行者開山、三仏寺は嘉祥2年(849)慈覚大師創建と伝わる。山内には奇岩等の奇勝が点在しており、修験の行場跡が今も数多く伝わっている。中世の動乱期には盛衰を繰り返すが、近世には鳥取藩の宮所として保護され、藩主のための祈祷を行った。 地形や気候の影響によって、標高に比して冷涼な環境に生育する植生が形成されている。また、照葉樹林からブナ林帯に至る植生の垂直分布が今も良好に保たれている。 昭和9年9月7日国名勝及び史跡指定。
1 三仏寺奥院（投入堂）	国	国宝	1棟	平安時代後期。懸造、流造、檜皮葺。縁板から1098年（辺材型）の年輪。蔵王権現を祀る。三徳山の自然共生思想を表す懸造の構造と平安時代の建造物の特徴である優美で伸びやかな屋根は崖下から仰ぎ見るという特異な設計により美の極致を体現する。
2 愛染堂	国	国宝（附）	1棟	国宝三仏寺奥院（投入堂）の附。平安時代後期。檜皮葺、切妻造。古材（叉首台）から1021年（辺材型）の年輪。岩窟の形状にあわせ屋根の一部を切り落とすなど、自然を守りつつ建立するための工夫が見られる。
3 三仏寺納経堂	国	重要文化財	1棟	平安時代後期。春日造、こけら葺。1082年（心材型）の年輪。岩の窪みに沿うように建てられる。
4 三仏寺地蔵堂	国	重要文化財	1棟	室町時代後期と推定。懸造、入母屋造、こけら葺。岩塊上に懸造によって建てられる。子守権現を祀る。南北朝時代にはこの堂にこもり写経が行われた。
5 三仏寺文殊堂	国	重要文化財	1棟	天正8年（厨子金具銘）の建築と推定。懸造、入母屋造、こけら葺。岩塊上に懸造によって建てられる。勝手権現を祀る。 厨子金具は天正8年(1580)南条氏一族の寄進。
6 三徳山三仏寺建造物群（不動堂）	鳥取県	保護文化財	1棟	江戸時代後期と推定。切妻造向拝付。
7 三徳山三仏寺建造物群（元結掛堂）	鳥取県	保護文化財	1棟	江戸時代前期と推定。春日造、こけら葺。剃髪した僧の髪を納めた。
8 三徳山三仏寺建造物群（觀音堂）	鳥取県	保護文化財	1棟	江戸時代前期。正保5年（1648）初代鳥取藩主池田光仲が再建。入母屋造、旧こけら葺。岩窟内に建つ。行者道は堂の背後を通過し「胎内くぐり」と言われる。
9 三徳山三仏寺建造物群（鐘樓堂）	鳥取県	保護文化財	1棟	鎌倉時代の可能性あり。切妻造、こけら葺。
10 三徳山三仏寺建造物群（十一面觀音堂）	鳥取県	保護文化財	1棟	江戸時代中期と推定。切妻造、向拝付。こけら葺。
11 三徳山三仏寺建造物群（本堂）	鳥取県	保護文化財	1棟	天保10年建築（寺伝）。宝形造、こけら葺。現在解体修理中。貞享5年（1688）初代鳥取藩主池田光仲が造営。天保10年（1839）7代池田斉訓が再建。
12 香楼堂	三仏寺	-	1棟	江戸時代後期と推定。宝形造、こけら葺。現在トタン仮葺。
13 輪光院	輪光院	-	1棟	もと法明院。慶長4年（1599）建立と伝わる。
14 正善院	正善院	-	1棟	もと禅梁院。慶長4年（1599）建立と伝わる。
15 皆成院	皆成院	-	1棟	もと韻城院。
16 烏谷神社	合谷区	-	1棟	享保の絵図に「旗生王」と記載。

17 平神社	成区	-	1 棟	行者道中の天神社を移したと伝わる。
18 正善院庭園	鳥取県	名勝	13 a	江戸時代初期と推定。文殊堂を借景とする。鳥取藩主が愛でたと伝わる。
19 しめかけ杉	三仏寺	-	1 本	行者道入口にある樹齢約1000年とも伝わる神木。三徳山の歴史を絶えず見守り続けてきた。「とっとりの名木100選」に選定されている。
20 行者道	三仏寺	-	600 m	投入堂までの行場。歴史的建造物が点在。道中にはカズラ坂、クサリ坂、馬の背・牛の背など難所が続く。
21 宿入橋	三仏寺	-	1 基	行者道の入口にある神域と俗世の結界。
22 役行者像	三仏寺	-	1 軀	行者道中カズラ坂手前にある石像。
23 行者屋敷跡	三仏寺	-	200 m	行者道中にあり、柱穴等確認される。行者の修行拠点。中国景德鎮産磁器が出土。
24 夫婦杉	三仏寺	-	1 本	觀音堂前にかつて2本あった大木、現在は1本。
25 千軒原	合谷区	-	7 ha	三徳川右岸にある平坦地。「九曜千軒原」とも。かつての僧坊跡と伝わる。
26 三徳風穴	合谷区	-	1 基	千軒原にある石室。年間を通じ10℃前後という低温を保つ。天然の貯蔵庫として養蚕などに利用した。
27 麻沙門岩	合谷区	-	-	千軒原北側に位置する大岩。麻沙門天の顔に似る。
28 大門跡	合谷区	-	1 組	2本の石柱が立つ。その姿は享保の絵図にも記載。発掘調査により石柱間を通過する道路跡を確認。
29 大門坂	三徳山区	-	-	三徳川左岸から大門跡に向かい川に下る坂。
30 海老谷	三徳山区	-	2 ha	享保の絵図等により清涼院跡と伝わる。
31 海老谷の滝	三徳山区	-	15 m	海老谷上流にある滝。信仰の対象となった。
32 観音院遺跡	三徳山区	-	-	中世から近世の建物跡、鉄加工施設跡が出土。
33 堀離取川	三仏寺	-	1 条	行者が入山する前に心身を清めたと伝わる。
34 不動滝	三仏寺	-	10 m	堀離取川にある滝。信仰の対象となった。
35 鮎返りの滝	合谷区	-	6 m	三徳川本流にある滝。信仰の対象となった。
36 阿弥陀滝	成区	-	26 m	成の上流にある滝。享保の絵図に記載がある。
37 鐘ヶ邱滝	成区	-	10 m	成の上流にある滝。信仰の対象となった。
38 粟滝	成区	-	23 m	享保の絵図記載の「念佛滝」か。
39 部屋の谷滝	成区	-	-	享保の絵図記載の「成滝」か。
40 向滝	成区	-	21 m	成集落の対岸にある滝。信仰の対象となった。
41 馬場	合谷区	-	-	三徳山に入山する際ここで下馬したと伝えられる。
42 大鳥居	合谷区	-	1 基	元治元年(1864)、倉吉の浦島氏寄進の石の大鳥居。

神倉地区

名 称	保護主体	保護の種別	員数	概 要
神倉地区	神倉区	-	100 ha	三徳山の信仰と関連する神社や祭祀遺跡が存在。かつては三徳山の山頂付近を越え行者が往来した。冠岩等の岸壁には絶滅が危惧される希少な植物が生育している。
43 神倉神社	神倉区	-	1 棟	神倉にある神社。平安時代の如来坐像などが伝わる。
44 冠岩	神倉区	-	-	岩藏など修驗道の祭祀遺跡が残される。

小鹿地区

名 称	保護主体	保護の種別	員数	概 要
小鹿渓	国	名勝	826 ha	延長約3kmの渓谷。三徳山の自然林と連続。三徳山同様指定地内には原生的な植生が保全されている。中世三徳山領に含まれる。現在も3院の檀家が多数存在する。また、祭礼行事を支える神人株が現在もつたわっている。 昭和12年12月8日国名勝指定。
45 山伏の滝	神倉区	-	8 m	神倉に所在し、行者が修行した滝。

資産の範囲内にある関連文化財

名 称	保護主	保護の種別	員数	概 要
棟札	国	国宝（附）	1 枚	投入堂の附。永和元年（1375）銘修理棟札。
古材	国	国宝（附）	43 点	投入堂の附。大正修理で取り外された古材。
木造蔵王権現立像 (奥之院安置)	国	重要文化財	1 軀	投入堂正本尊。平安時代後期。檜材、寄木造。木造蔵王権現立像の代表作例とされる。康慶作とする説あり。
紙本墨書き仁(安)三年 造立願文	国	重要文化財 (附)	1 卷	木造蔵王権現立像(奥之院安置)の附。仁安3年(1168)銘あり。
木造蔵王権現立像	国	重要文化財	6 軀	投入堂脇本尊。平安時代。すべて檜材、一木造。もと彩色。6 - 1像から1025年(樹皮型)の年輪。
木造聖観音立像(觀音堂 安置)	国	重要文化財	1 軀	本来十一面觀音。平安時代後期と推定。檜材、一木造。
銅鏡	国	重要文化財	1 面	中国浙江省博物館所蔵鏡と同一の鏡背文様。鏡面に胎蔵界中台八葉院線刻。長徳三年(997)銘あり。
銅造誕生釈迦仏立像	鳥取県	保護文化財	1 軀	平安時代と推定。山内出土と伝わる。
木造蔵王権現立像	鳥取県	保護文化財	1 軀	正善院蔵。平安時代後期と推定。檜材、一木造。
木造狛犬	鳥取県	保護文化財	1 対	鎌倉時代後期と推定。檜材、寄木造。投入堂内蔵王権現の前に安置された。
三仏寺本堂併詣額	三朝町	保護文化財	1 面	江戸時代の奉納併句。本堂裏に掲示。
男神座像	三朝町	保護文化財	1 軀	平安時代と推定。一木造。
女神座像	三朝町	保護文化財	1 軀	鎌倉時代と推定。一木造。
宮本包則刀剣	三朝町	保護文化財	1 振	明治43年、帝室技芸員宮本包則作。
写経	三朝町	保護文化財	11 卷	主に南北朝時代。豊前国からの奉納や血書もあり、当時の信仰の篤さが伺える。
木造蔵王権現立像	三仏寺	-	1 軀	本堂安置。平安時代後期。1002年(辺材型)の年輪。
木造狛犬(阿形)	三仏寺	-	1 軀	投入堂安置。平安時代。1099年(辺材型)の年輪。
木造地蔵菩薩坐像	三仏寺	-	1 軀	地蔵堂本尊。南北朝時代。
木造毘沙門天立像	三仏寺	-	1 軀	平安時代と推定。一木造、内ぐり無。
木造男神坐像	三仏寺	-	1 軀	室町時代。永正17年(1520)銘。都の仏師栄海金剛
木造男神坐像	三仏寺	-	1 軀	室町時代。天文10年(1541)銘。山城国の仏師作。
木造男神坐像	三仏寺	-	1 軀	室町時代。天文10年(1541)銘。山城国の仏師作。
木造男神坐像	三仏寺	-	1 軀	室町時代と推定。
木造女神坐像	三仏寺	-	1 軀	平安時代と推定。本来は町指定男神坐像と対か。
木造僧形坐像(律師行)	三仏寺	-	1 軀	室町時代。一木造、内ぐり無。応永33年(1426)銘。
木造僧形坐像(律師秀)	三仏寺	-	1 軀	室町時代。檜材、寄木造。
木造僧形坐像(大阿闍梨 重秀)	三仏寺	-	1 軀	江戸時代。檜材、寄木造、内ぐり有、彩色無、さし首、彫眼。万治3年(1660)泊村休哲作。
唐櫃	三仏寺	-	1 合	南北朝時代。1369年(辺材型)の年輪。
美德山三佛寺境内絵圖	三仏寺	-	1 幅	江戸時代。享保19年(1734)銘。
参籠札	三仏寺	-	1 枚	南北朝時代。貞和2年(1346)銘。
白磁香炉	三仏寺	-	1 口	中国宋代と推定。比叡山横川経塚出土品と同形。
青磁鉢	三仏寺	-	1 口	中国宋代と推定。
青磁水注	三仏寺	-	1 口	中国宋代と推定。
鉄製鰐口	三仏寺	-	2 口	室町時代と推定。文殊堂及び觀音堂の鰐口。
銅印	三仏寺	-	1 顆	昭和26年(1949)。帝室技芸員香取秀真鑄造。
禁制札	三仏寺	-	1 枚	櫻材。鳥取藩による禁制札。宝暦9年(1759)銘。山内での樹木伐採、殺生等を禁じる。
神輿	三仏寺	-	2 基	御幸行列の際子守権現、勝手権現が乗る神輿。子守権現の神輿に天保5年(1834)再建と銘あり。
獅子頭	三仏寺	-	1 面	蔵王権現が乗るとされる一角獣型の獅子頭。輪光院の仏間に本尊同様大切に祀られたと伝わる。
木造如来坐像	神倉区	-	1 軀	神倉神社蔵。平安時代と推定。檜材、一木造。冠岩で祭っていたものを神社に下ろしたとの伝承あり。
木造天部立像	神倉区	-	1 軀	神倉神社蔵。平安時代と推定。檜材、一木造。
鉄製鰐口	神倉区	-	1 口	神倉神社蔵。室町時代と推定。直径36.5cm。

資産の周辺にある関連文化財

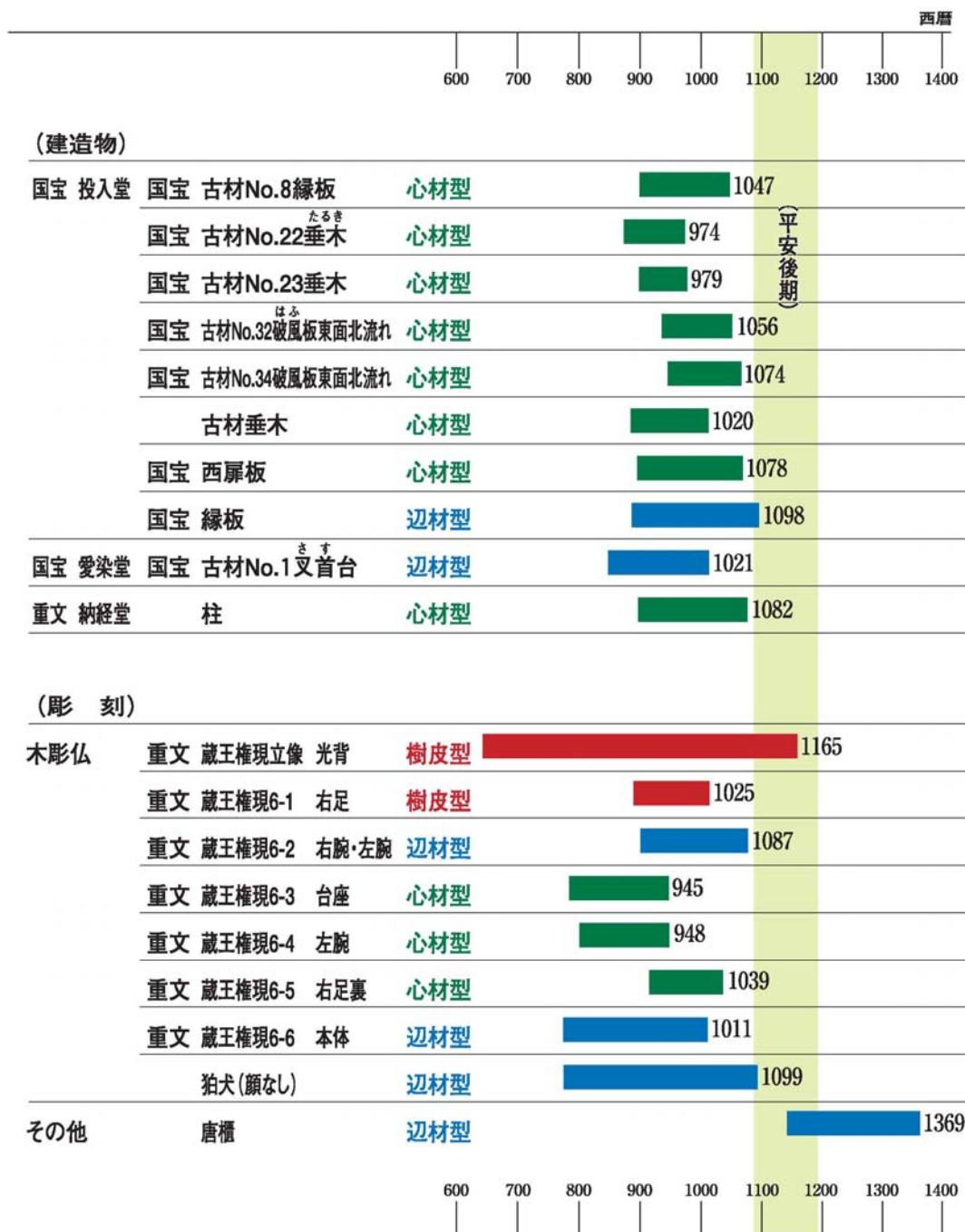
名 称	保護主体	保護の種別	員数	概 要
鬼岩	坂本区	-	-	三徳山で処罰された罪人の首をさらしたと伝わる。
坂本風穴	坂本区	-	1 穴	坂本黒川上流にある石室。年間を通じ低温を保つ。
中津の普賢堂	三朝町	保護文化財	1 棟	正善院所管。平安時代の邪鬼などが伝わる。
中津神社	個人等	-	1 棟	三徳山の木造狛犬（阿形）と似た石造狛犬がある。
伝安徳天皇陵	個人等	-	1 基	中津にある平家落人伝説に由来。
伝平家一門の墓	個人等	-	1 基	中津にある平家落人伝説に由来。
伝二位尼の墓	個人等	-	1 基	中津にある平家落人伝説に由来。
南条家古文書	三朝町	保護文化財	1 通	中津に伝わる南条氏の山林境界裁定文書。天正 7 年(1579)銘。
木造台座（多聞天像邪	正善院	-	1 基	普賢堂所蔵。平安時代と推定。一木造。近世修補。
木造台座（持国天像邪	正善院	-	1 基	普賢堂所蔵。平安時代と推定。一木造。近世修補。
道しるべの地蔵	個人等	-	-	三徳山の参道に点在する、参詣者の道しるべのための地蔵。

資産に関連する祭礼行事、民俗慣行等

名 称	保護主体	概 要
三徳縁	三仏寺	4月18日に行われる春季法要。御幸行列、大護摩供が行われ、参拝者で賑わう。
三徳縁御幸行列	三徳縁御幸行列保存会	起源は室町時代に遡ると推定。小鹿・三徳地域の住民がさまざまな役を担う。神輿に乗る御正体（正善院蔵）木箱に大永6年(1526)銘。
神人株	坂本区	三徳縁で行われる御幸行列で諸役を担当。坂本（正善院系統）、東小鹿・西小鹿（輪光院系統）の特定の家が世襲制で勤める。
榊組	坂本区・東小鹿区・西小鹿区	三徳縁の御幸行列で、榊・幟・囃子方を勤める。坂本の特定の家が世襲制で勤める。
部落まいり	各区	三徳山近隣の村（俵原・吉原・成・合谷・坂本）で病人が出た時、村人が集団で三徳山に詣で、治病祈願を行う。
三徳山をひらく	俵原区	俵原で年2回、三徳山の掛軸を祀り、念佛や般若心経を唱え、直会をする。
氏子	個人等	灑水で盆がためを行い、氏子台帳に記帳された人々。「権現さんの子供になる」と言い、檀家・信者・一般参詣者以外の寺院外護者。

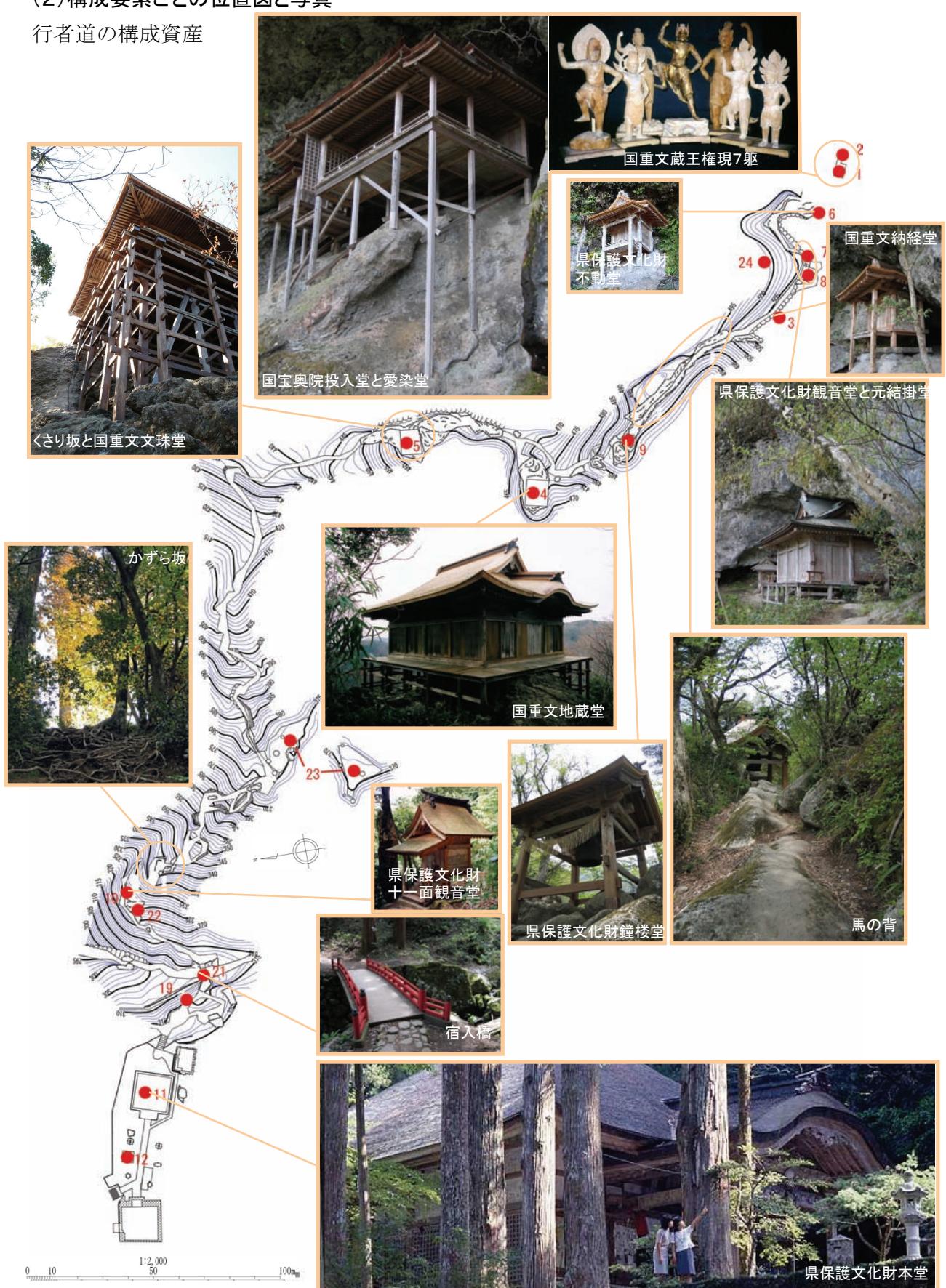
參考資料

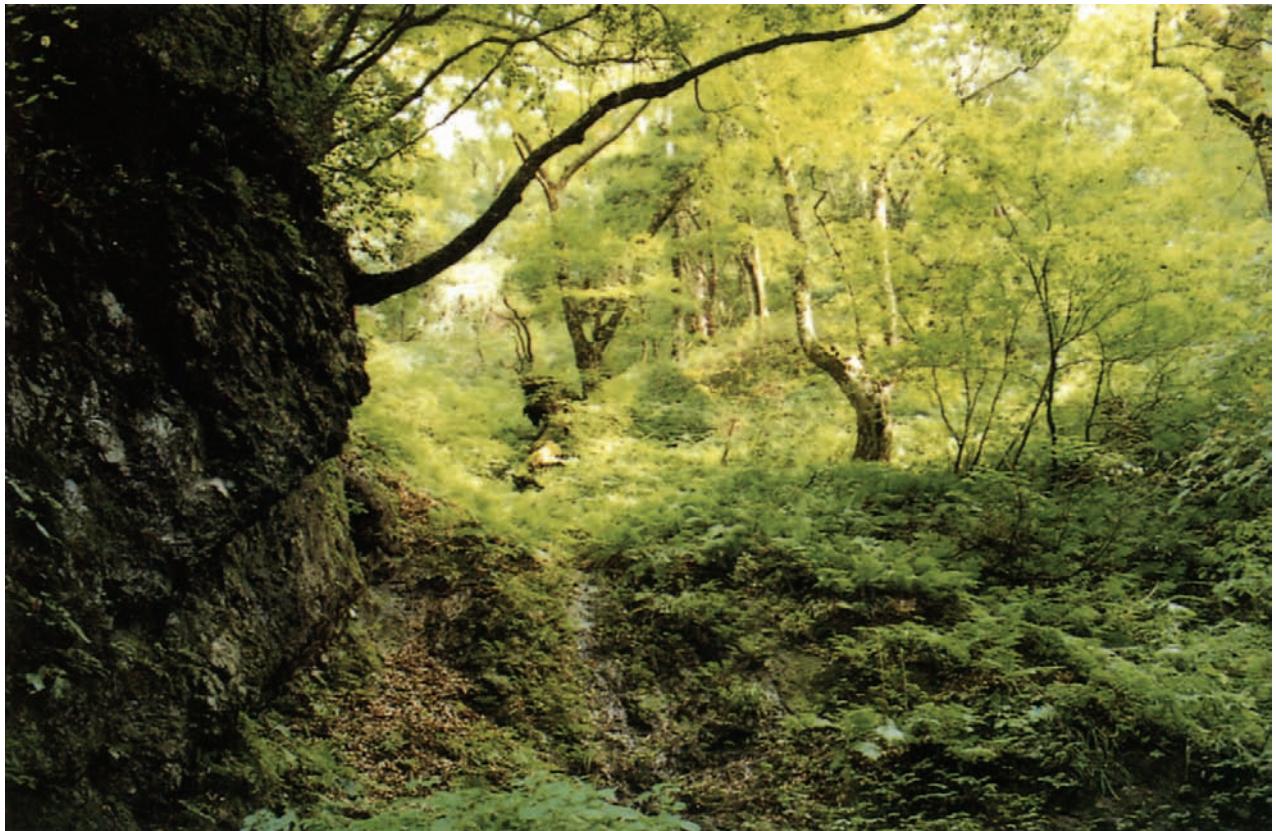
三佛寺年輪年代測定結果一覽表



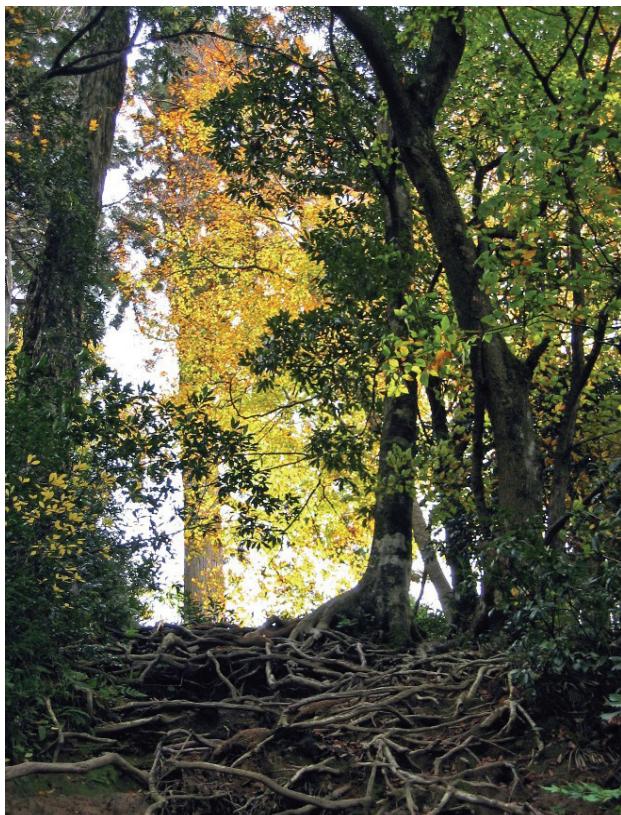
(2)構成要素ごとの位置図と写真

行者道の構成資産

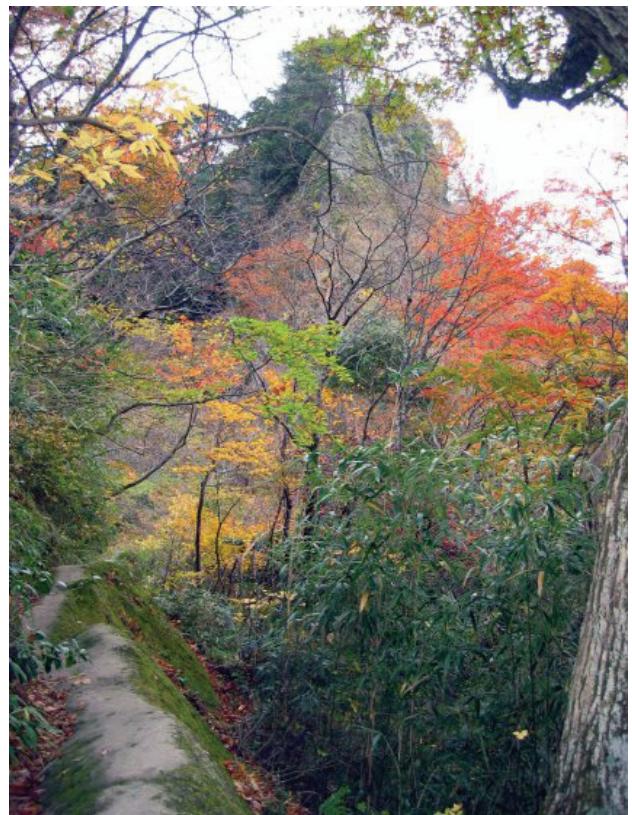




I 三徳地区 名勝及び史跡三徳山の原生的な自然環境(ブナやトチの自然林)



I 三徳地区 20 行者道—カズラ坂—



I 三徳地区 20 行者道—馬の背・牛の背—



I 三徳地区 1 国宝三仏寺奥院投入堂と愛染堂



I 三徳地区 1 国宝三仏寺奥院投入堂と、6 県保護文化財三徳山三仏寺建造物群(不動堂)

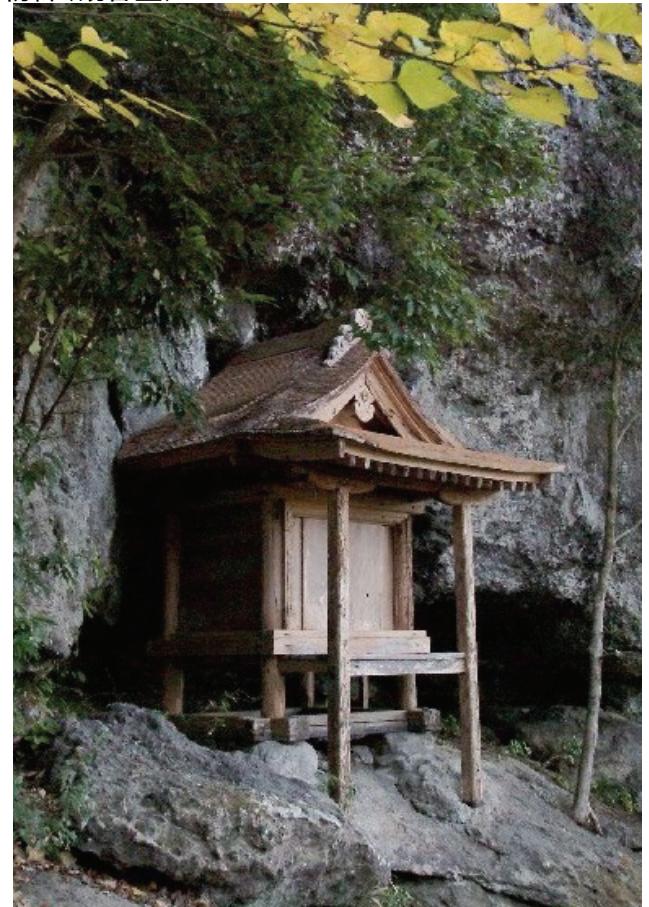


I 三徳地区 8 県保護文化財三徳山三仏寺建造物群(観音堂)

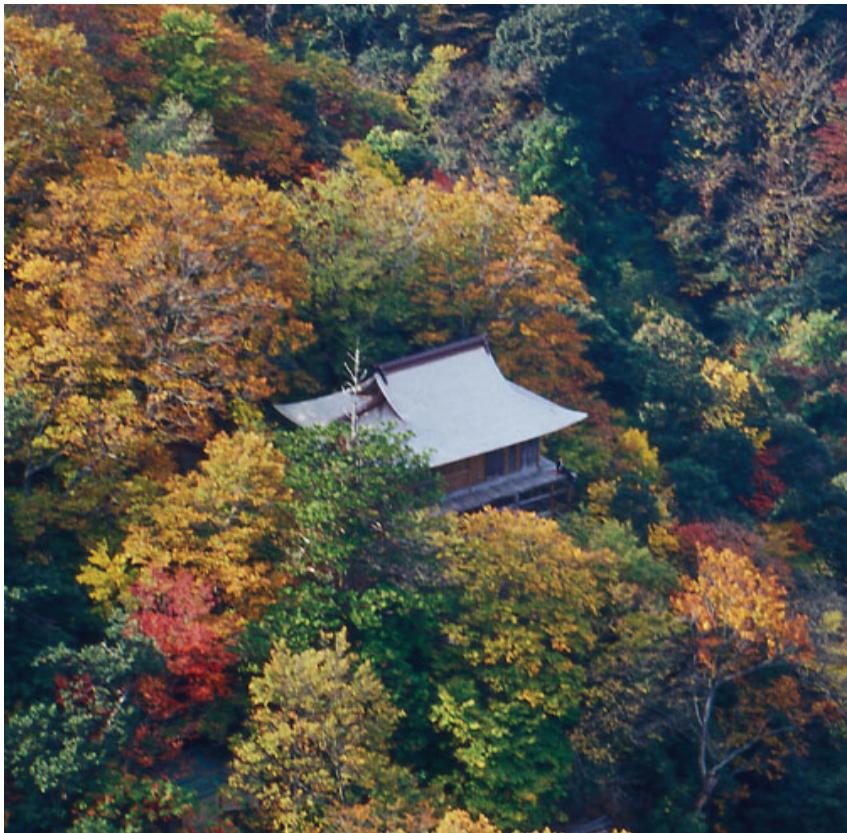


I 三徳地区

7 県保護文化財三徳山三仏寺建造物群(元結掛堂) 3 重要文化財三仏寺納経堂



I 三徳地区



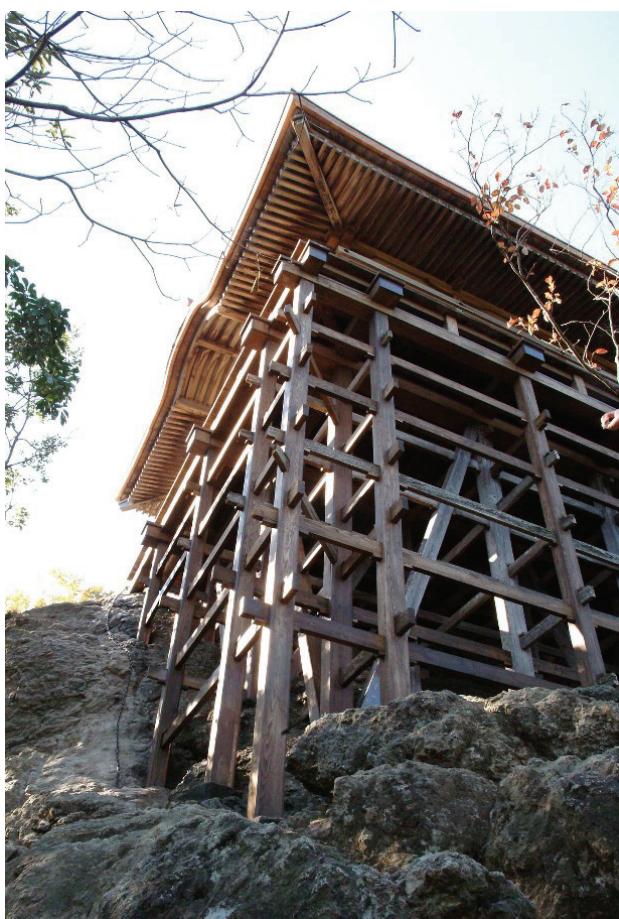
I 三徳地区 4 重要文化財三仏寺地蔵堂



I 三徳地区 4 重要文化財三仏寺地蔵堂(小野吉彦建築写真事務所 小野吉彦氏撮影)
(財)文化財建造物保存技術協会2006『国宝 三佛寺奥院(投入堂)ほか3棟 保存修理工事報告書』から複写・転載



I 三徳地区 5 重要文化財三仏寺文珠堂



I 三徳地区 5 重要文化財三仏寺文珠堂と、20行者道－くさり坂－



I 三徳地区 11 県保護文化財三徳山三仏寺建造物群(本堂)



I 三徳地区 護摩法要



I 三徳地区 28 大門跡



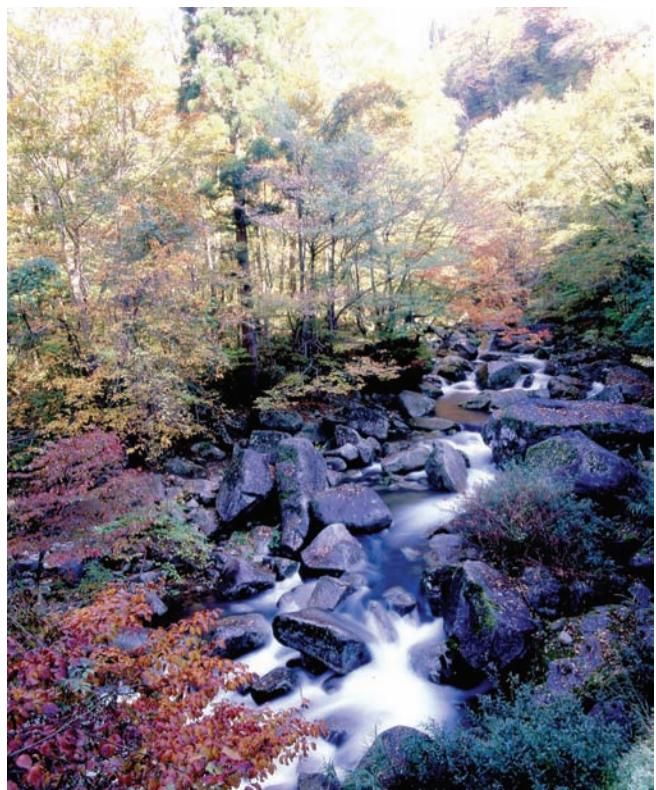
I 三徳地区 34 不動滝



I 三徳地区 35 鮎返りの滝



II 神倉地区 44 冠岩



III 小鹿地区 名勝小鹿溪



III 小鹿地区 45 山伏の滝

3 保存管理計画

(1) 個別構成要素に係る保存管理計画の概要又は策定に向けての検討状況

名勝及び史跡三徳山については、平成3年に『三徳山地域保存管理計画』、平成15年に『三徳山地域保存管理計画「環境整備基本計画」報告』が策定されているが、資産を構成する個別構成要素に係る厳密な保存管理計画は策定されていないため、下記の方向性に基づき、資産の適切な保存管理を行うために、国・鳥取県及び所有者とも連携を図りながら、三朝町が中心となり、確実に保存管理が実施されるものとして策定を進める。

構成要素の名称と現在の指定種別		保存管理計画策定に向けての方向性
三徳山	国名勝及び史跡	資産の根幹をなすものであることから、植生や地質など自然に関する調査、地下遺構等埋蔵文化財調査、文献調査、民俗学的調査など、過去の調査成果も加味し、総合的な調査研究を踏まえた上で、地元住民の生活環境や参詣者対策も講じた保存管理計画とする。
三仏寺奥院（投入堂）	国宝	
愛染堂	国宝（附）	
三仏寺納経堂	重要文化財	
三仏寺地蔵堂	重要文化財	
三仏寺文殊堂	重要文化財	
不動堂	県保護文化財	
元結掛堂	県保護文化財	
觀音堂	県保護文化財	
鐘樓堂	県保護文化財	
十一面觀音堂	県保護文化財	
本堂	県保護文化財	本坊としての歴史性が維持できる保存管理計画とする。
香樓堂	未指定	
輪光院	未指定	
正善院	未指定	
皆成院	未指定	
正善院庭園	県名勝	
神倉地区	未指定	三徳山に関連する宗教活動が行われたことが明らかであり、その文化的価値は名勝及び史跡三徳山指定地と不可分のものである。したがって名勝及び史跡三徳山の範囲と同様の調査研究を行い、文化財保護法に基づく追加指定を検討する。
神倉神社	未指定	
冠岩	未指定	
小鹿渓	国名勝	三徳山と連続して構成される自然環境の調査を実施し、地元住民の生活を踏まえた保存管理計画とする。
山伏の滝	未指定	

(2) 資産全体の包括的な保存管理計画の概要又は策定に向けての検討状況

①検討状況

現在、資産全体の包括的な保存管理計画は策定されていない。

三徳山は資産の範囲が広く、資産を構成する要素は多岐にわたっている。三徳山が信仰の対象と

なって以来、守り伝えられている自然環境と文化的景観を包括的に保存管理するために必要な調査研究を進めながら、個別構成要素に係る保存管理計画の内容も加味した資産の包括的な保存管理計画について具体的な策定を進める。その際、必要に応じて資産の範囲を再検討する。また、併せて三朝町、鳥取県の保存管理体制の充実を図る。

なお、資産の範囲は主に名勝及び史跡三徳山と名勝小鹿渓の指定地からなるが、一部に未指定地を含む。未指定地については、名勝及び史跡三徳山の追加指定を視野にいれた調査研究を実施する。

②策定に向けて必要な検討

1 資産を構成する諸要素を明確に把握するための調査

- 信仰対象である三徳山の自然を適切に保全するため、三徳山の自然環境について調査研究を進める。
- 三徳山の自然環境と文化的景観を適切に保全していくため、資産内における土地利用の在り方、習俗慣行に関する調査研究を進める。

2 資産の適切な保存管理のために必要な整備活用に関する検討

- 資産を確実に保存管理していくために必要な整備を行いながら、三徳山の魅力を体感してもらうための活用方法について検討を行う。

3 包括的な管理を行うための組織体制及び運営体制に関する検討

- 資産を適切に保存管理し、活用していくための活動に住民が積極的に参加できる気運の醸成と環境づくりを検討する。
- 管理・運営体制を整備し、町、県、国又は周辺市町との連携を強化することを検討する。

（3）資産と一体をなす周辺環境の範囲、それに係る保全措置の概要又は措置に関する検討状況

①資産と一体をなす周辺環境の範囲

資産と一体をなす周辺環境の範囲は、三徳山周辺を取り囲む山稜で区切られた範囲であり、三徳山からの可視性という観点での景観保全に合理的である。これは三徳山領として文献資料に記された最古の記録となる康永3年（1344）の「伯耆国美德山領温谷別所檢注目録」（壬生文書）の記述された寺領に相当する範囲を包括するもので、三徳地域（三朝町大字俵原、三徳、坂本、片柴、余戸）及び小鹿地域（三朝町大字中津、神倉、東小鹿、西小鹿、高橋、西尾、吉田）とする。

三徳地区及び小鹿地区は、近世以降の輪光院、正善院及び皆成院の檀家の分布とおおよそ一致しており、旧三徳村及び旧小鹿村の範囲であったことから、公民館の設置等行政上の区分、小学校区とも一致しており、地域の実情に合致した範囲でもある。

②保全措置の概要

現在、全域が自然公園法に基づく「氷ノ山後山那岐山国定公園」又は同法及び鳥取県立自然公園条例に基づく「三朝東郷湖県立自然公園」に含まれる。また、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律に基づく鳥取県指定の三徳山鳥獣保護区が設定されているほか、森林法に基づく保安林指定地が多数分布している。

③保全措置に関する検討状況

両地域には三朝町「地域の総合力を高め自立を促進する条例」に基づき地域住民が自主的な地域づくりを行うことを目的として「三徳地域協議会」及び「小鹿地域協議会」を設立しており、地域住民が当該地域において実際生活に即した各種の事業及び学習、地域における伝統文化の伝承その他地域住民が主体となって取り組む活動を行っている。資産と一体をなす周辺環境の範囲に係る保全措置については、資産全体の包括的な保存管理計画との整合性をとりつつ、関連各部署と連携を図りながら、両地域協議会を中心に具体的手法を検討する。

4 世界遺産の登録基準への該当性

(1) 資産の適用種別と世界文化遺産の登録基準

- 適用種別** 「記念物」「遺跡」「文化的景観」
- 登録基準** i)・iii)・iv)・vi) に該当

i) 人間の創造的才能を表す傑作である

行者道の構成要素として三徳山特有の自然環境の中に配置された国宝奥院投入堂を中心とする建造物群は、優れた設計思想のもとに信仰の根源である自然環境との調和を見事に実現した人間の創造的才能を表す傑作である。

iii) 現存するか消滅しているかにかかわらず、ある文化的伝統又は文明の存在を伝承する物証として無二の存在（少なくとも希有な存在）

三徳山には山林寺院・修験の靈場として1,000年以上の歴史があり、近世には藩の加護を受け、藩主の祈祷を行う重要な寺院であった。今も三徳山には三佛寺を中心に貴重な宗教儀礼や祭礼行事が地域に継承されている。また、現存する建造物にとどまらず、山内には峰入りした修験者達の行場跡、中近世の寺院・僧坊跡等の遺跡が埋蔵されており、参詣者の道標である石造物が今も点在している等、信仰に関わる文化的伝統を現在に伝えている。

iv) 歴史上の重要な段階を物語る建築物、その集合体、科学技術の集合体、あるいは景観を代表する顕著な見本

中世以降、仏教寺院としての三徳山は衰退と再興を繰り返してきた。その中で、行者道を構成する建造物群は本来の姿を失うことなく今に伝えられており、国宝奥院投入堂は日本国内で発展した独自の建築様式を示す神仏習合を表す建築の最古例として、歴史上、芸術上の建築的価値が高い。また、三徳山の建造物には急峻な地形を巧みに利用した懸造に代表される高度な建築技術が用いられており、優れた建造物と自然環境の融合により、自然崇拜を具現化した景観を代表する顕著な例である。

vi) 顕著な普遍的価値を有する出来事（行事）、生きた伝統、思想、信仰、芸術的作品、あるいは文学的作品と直接または実質的関連がある（この基準は他の基準とあわせて用いられることが望ましい）

三佛寺を中心に伝統的な宗教儀礼、祭礼行事等が継続されているだけでなく、中世以来、三徳山に関わりの深い集落には今も三徳山の祭祀を支えてきた世襲制の株組織等の民俗慣行が存続している。三徳山は信仰とともに育まれてきた生活文化や伝統が、今も変わらない自然景観に含まれながら生き続けており、信仰を介在して人と自然の共生を表す事例として、東アジア地域における同種資産の模範例である。

(2) 真実性・完全性の証明

本資産を構成する記念物及び遺跡については、所有者を始め、国及び地方公共団体によって適切に保存管理が行われており、形状・意匠、材料・材質、伝統・技能・管理体制、位置・環境、精神・感性のいずれの点においても資産の価値を損ねることなく良好な状態を保っている。

また、記念物及び遺跡を構成要素とする文化的景観についても、原生的な自然環境の保全はもちろんのこと、宗教儀礼や伝統的な祭礼行事、生活文化もそれぞれの価値を損ねることなく継続されており、適切な保存管理計画の下に適切な調整を行うことで、資産の真実性・完全性を保つことが可能である。

①形状・意匠

本資産の地上に存在する木造建造物又は石垣、石塔等の構造物は伝統的な解体・修理等が適切に行われることによって、建造時の形状・意匠を良好に保たれている。また、近代以降に行われた保存修理では、後世の修理・改変によって価値を損ねている不要な部材等を撤去し、必要に応じて復原、復旧が行われている。

行者道は人の往来によって形成された踏み分け道であるが、奥院投入堂までの参詣道として機能している今でも行者道としての形状・機能を良く保っている。風雨災害等による倒木の撤去、路面表土の風化や流出等の小規模な被害については、維持管理の範囲で復旧を行い、現状の維持を図っている。

また、名勝・史跡の指定地内には、照葉樹林からブナ林帯へと変遷する植生の垂直構造が良好に残されており、今も信仰の基盤をなす原生的な自然環境が健全な状態で保全されている。

②材料・材質

木造建造物は、腐朽、虫害、風雨による劣化、破損等の危険に常にさらされており、修理が必要な場合には、必要最低限の修理を原則とし、劣化又は破損している部分又は部材のみを取り替え、可能な限り当初材を残す措置を講じている。

また、新材料の補填も同種材を用いることとし、取り替えられた部材のうち、建立時期等を示す重要な部材については別途保管することとしている。近世に築かれた石垣の修復については、当初部材を原位置に戻すことを徹底し、同種石材を使用することで真実性を確実なものとしている。

③伝統・技能

宗教法人や地元の人々によって宗教儀礼や祭り行事が継続されており、近年、第2次世界大戦を契機に途絶えていた御幸行列等の祭礼行事が復活する等、三徳山の伝統は良好に保持されている。

④位置・環境

本資産に含まれる記念物、遺跡等の構成要素はすべて造営・製作された当初の位置を踏襲している。また、発掘調査によって明らかとなった地下遺構は原位置での保存措置を講じている。また、原生的な自然環境も良好に保たれており、今も信仰の空間の神聖性を醸成している。

⑤精神・感性

三徳山という信仰の山には、山肌に露出する岩塊や滝等、古来から信仰を集めてきた神聖な場所が確実に保持されており、その中心にある三徳山三佛寺では、宗教儀礼や祭礼行事が今も継続されている。また、三徳山周辺の集落には今も行事の担い手となる株組織が存続するなど、三徳山という信仰の山に対する精神・感性の完全性は高い。

(3) 類似遺産との比較

三徳山には、人と自然環境との調和によって顕在化した信仰の山に形成された文化的景観が極めて良好に保存されている。これを端的に表すのが急峻な地形に建造された建造物群である。三徳山の建造物は山林修行の場である行者道に立体的に配置されるが、懸造という手法によって自然との調和が示現している。

同種の遺産に「紀伊山地の霊場と参詣道」があるが、原生的な自然林が広範囲に良好に残されている三徳山と異なり、人工的な植林が多くを占めている。建造物にも三徳山に認められる思想と手法は見られない。また、「巖島神社」は信仰対象である島を避け、海上に貴族の邸宅を模した建造物を集中的かつ平面的に配置しており、人と自然との関わり方を含め、その設計思想は三徳山と根本的に異なる。

一方、国外には、中国に道教を信仰の背景とする「武当山の古代建築物群」がある。しかし、山上に土台を形成し、平地の宮殿を模した建造物を配置する点で三徳山とは性格を異にする。また、同じ中国の「懸空寺」には懸造による建造物群が存在しており、その外観は投入堂に類似する。しかし、それらは崖下の河川増水対策及び交通確保を主な立地的目的としており、信仰を背景に自然景観との調和を誇る投入堂に代表される三徳山の懸造と同類とはいえない。

数ある宗教・信仰・習俗に関する山岳・島嶼及び巡礼道・参詣道等の同種資産の中にあって、三徳山は信仰の場、宗教施設群としての歴史的価値が高いだけでなく、信仰の空間として、時代を越えて人と自然との関わりを表現した文化的景観の顕著な事例である。